

› 投資家からの需要が高まるテーマ型投資

新たなインデックス・プロダクトを創る  
機運が到来

テーマ型投資がブームになりつつあります。ファクトセットとフォーブス・インサイトが2021年に世界の機関投資家を対象に実施した調査によると、自身の会社がテーマ型投資に関心を持っているとした人は10人中9人以上に上り、そのうち55%は非常に高い関心を持っていると回答しています。

ファクトセットのインデックス・ソリューション部門ヘッドであるジェレミー・ザウはこう述べます。「投資家にとって極めて重要なセグメントになりつつあるテーマ型投資は、最も制約の少ない投資方法のひとつです。テーマ型投資では、例えば、高齢化などの長期的な構造トレンドがもたらす投資機会を模索し、そのテーマに沿ったETP（上場取引型金融商品）やインデックスファンド、あるいはその他のアプローチを策定します。この手法が他の投資方法と異なるのは、地理、セクター、スタイル、時価総額、さらにはアセットクラスにさえ制約されないという点にあります。」

現在はまさにテーマ型投資、すなわち、広範囲の市場を幅広く追跡する上場およびストラクチャード・インデックスの時代と言えます。2021年2月、テーマ型ETPや上場投資信託（ETF）への投資資産は過去最高の3,940億ドルに達し、同月には世界で50本以上の新たなテーマ型ETF/ETPが設定されました。

このような傾向を掘り下げ、ETF、上場投資証券（ETN）、コモディティ上場投資信託（ETC）などのETPに対する現在と近い将来の投資家の関心を把握するために、ファクトセットとフォーブス・インサイトは、北米（39%）、欧州（26%）、アジア太平洋地域（35%）の投資担当役員103人を対象に調査を行いました。

回答者の多くは、運用資産2億5,000万ドル以上の大手商業銀行（42%）、保険会社（19%）、投資信託（17%）、ヘッジファンド（15%）、基金・財団（4%）のいずれかに所属していました。

調査結果によると、テーマ型投資はすでに確固たるものとなり、需要は引き続き拡大しています。調査回答者の95%が革新的な投資アイデアの発掘に興味を持ち、今後1年半の間にテーマ戦略への投資は35%（現在は28%）に増加する見込みで、大半がETFに注目していると回答しています。

投資家は、これまでの実績を評価しつつも、さらなる成果を求めているようです。10人中8人以上が、テーマ型の投資機会（特に環境・社会・ガバナンス（ESG）やサステナビリティに関するもの）の充実を期待しており、さらに調査回答者は、革新的なテーマ型投資を共同で開発することに意欲的な運用会社を積極的に求めています。

資産運用会社にとってのチャンスが、今まさに現実のものとなっているのです。本稿では、資産運用会社が市場の変化を理解し、お客様により良いサービスを提供するために、テーマ型投資の現状と今後の成長、投資家が目的を実現するためにどのような手段や戦略を用いているか、そして資産運用会社が投資家のニーズに応えるために今後何をすべきかについて詳しく見ていきたいと思います。

3,940億ドル

テーマ型ETPおよびETFへの投資資産は、2021年2月に過去最高の3,490億ドルに達しました。



## ブームになりつつあるテーマ型投資

テーマ型投資という概念は何十年も前からありましたが、ここへ来て投資家の関心は着実に高まっています。今回の調査対象者の回答によると、ポートフォリオ全体の28%をテーマ型商品や戦略で保有しています。

An abstract graphic on the right side of the page. It features a prominent wireframe cube structure composed of interconnected lines and dots, rendered in a light blue color. Surrounding this cube are various smaller geometric shapes, including triangles and circles, also in light blue, scattered across the dark blue background. The overall aesthetic is modern and data-oriented.

セクション

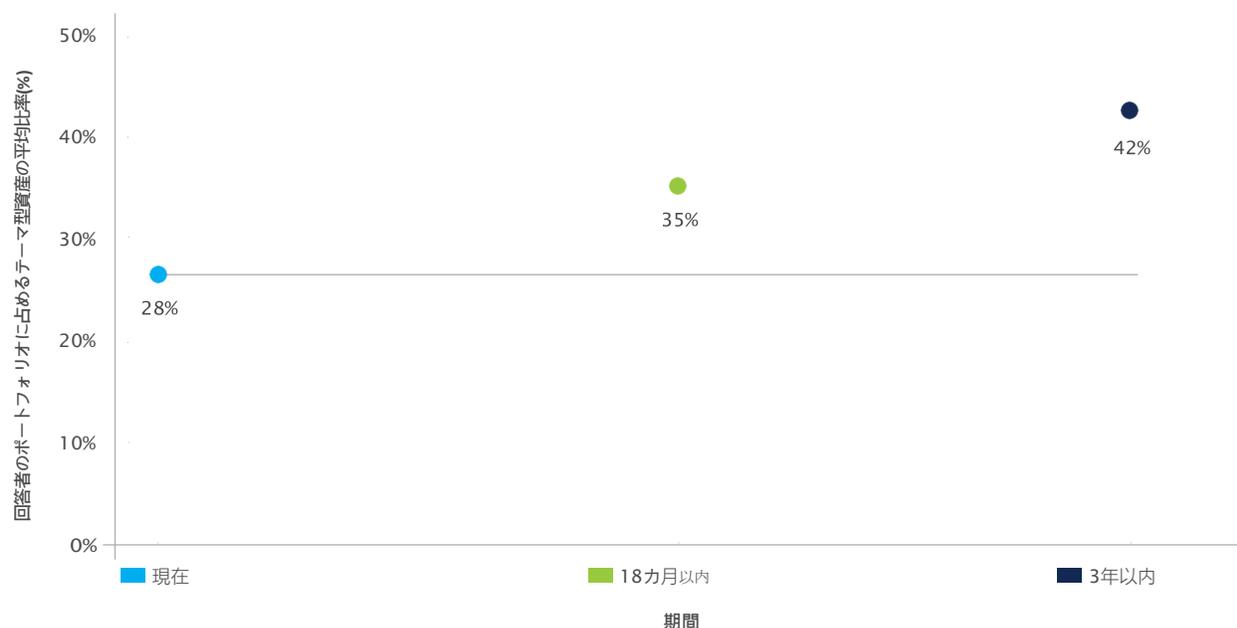
2019年にはインデックス連動型ファンドが初めて個別株を**追い抜き**、過去3年間を通し、テーマ型ETFの資産は**年率平均45%**で成長してきました。

これらの投資に対する人気の高まりは、回答者のポートフォリオを分析すると、より鮮明に浮かび上がります。ファクトセットとフォーブス・インサイトの調査対象となった投資家は、現在、平均してポートフォリオ全体の**28%**をテーマ型商品や戦略で保有していると回答しています。加えて、この数字は今後数年間で着実に増加すると予想しています。実際、投資家は、今後18カ月以内にテーマ戦略への投資総額が平均**35%**（成長率**25%**）に増加し、さらに3年以内には**42%**（成長率**20%**）に拡大すると予想しています（図1）。

ポートフォリオに占めるテーマ型投資の成長に関する先述の重要な点は、企業の所在地や規模による差異がほとんど存在しないということです。この均質性は、特に明記されていない限り、調査結果全体で確認されています。今回の調査は世界中のあらゆる規模の企業を対象としていることから、テーマ型投資の成長はまさにグローバルな現象であるという、驚くべき結果が得られました。

図1

**Q** 加速するテーマ型投資  
ポートフォリオに占めるテーマ型資産の割合はどのくらいですか？



現在、テーマ型投資の手段として最も多く挙げられているのはETFで、テーマ型投資に関心のある回答者の80%がETFを活用しています。

投資家はテーマ型投資で複数のアプローチを使っている

既に述べたようにテーマ型投資の概念は新しいものではありませんが、ザウが指摘するのは、以前は主として大量の資金を要するアクティブ投資で実現されていた点に変化が表れてきていることです。「様々なテーマに最も近い資産を調査し、選別するために、資産運用会社は大規模な専門家チームを抱える必要があったため、かつてのテーマ型投資は主に大規模なポートフォリオ向けに限定されていました」と、彼は付け加えています。

しかし現在では、ETFやETP、インデックスファンドなどを通じて、テーマ型投資を行うことができます。なお、今回の調査では、これらのアプローチを採用している企業の数を検証していますが、その程度は確認していません。この点を念頭におきつつ検証する必要がありますが、現在、テーマ型投資の手段として最もよく挙げられるのはETFであり、テーマ型投資に関心のある回答者の80%がETFを活用しています。各企業はそのほか、インデックスファンド（55%）、アクティブ運用商品（51%）、ETP（43%）、その他のパッシブ運用商品（31%）を利用しています。

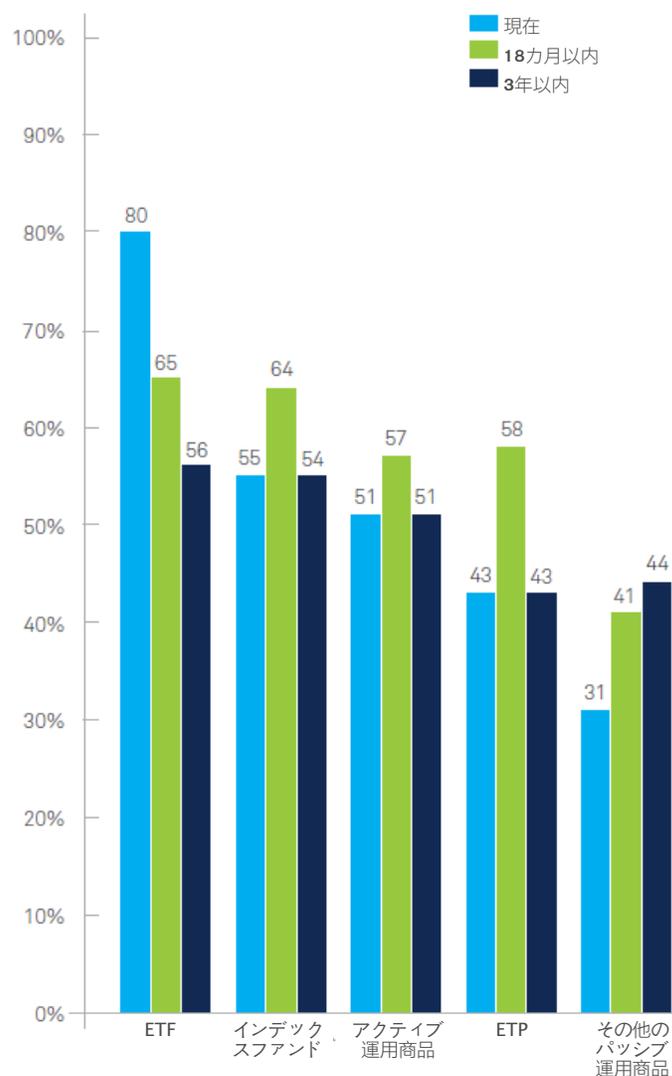
今後18カ月間の予測では、ETFの利用率が65%に減少する一方、ETPとインデックスファンドはそれぞれ58%と64%に急増するとされています。また、その他のパッシブ運用商品の利用率は41%に上昇し、アクティブ運用商品は57%に上昇すると見られています。

3年間で見ると、ETFを利用する見込みと回答した人の割合は再び減少（56%）するものの、それでもETFがテーマ型投資の目標達成において最も重要なツールであることに変わりはなく、インデックスファンド（54%）が僅差でこれに続き、アクティブ運用商品（51%）、その他のパッシブ運用商品（44%）、そして最後にETP（43%）の順となります（図2）。

図2

Q 企業は他のアプローチよりもETFを使用する可能性が高い

テーマ投資の目標達成のため、どのようなツールを使っていますか？



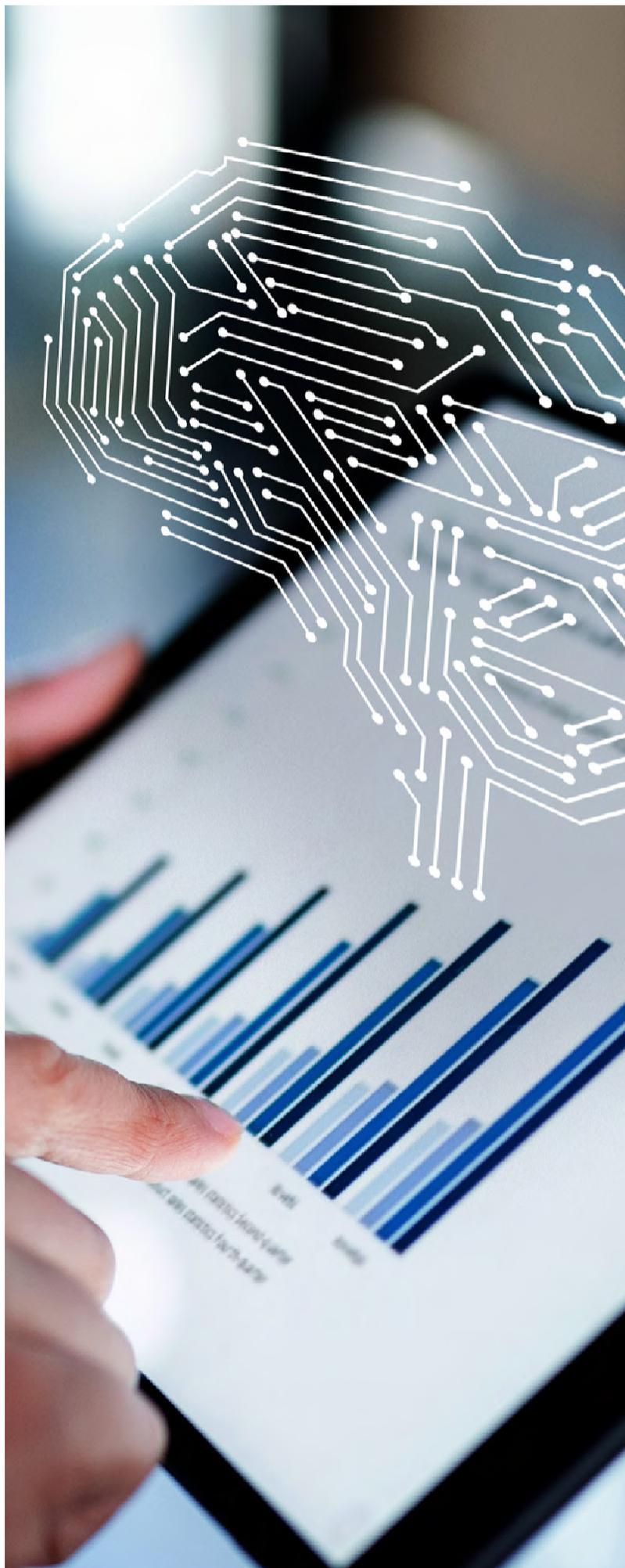
## 投資家が今後追い求めるテーマは、ブロックチェーン、気候変動、暗号通貨です。

### 資産運用会社と顧客のコラボレーションで 新たなテーマ型商品を構築

テーマ型投資が盛んになった要因の一つは、資産運用会社やファンドマネジャーが（多くの場合、特定の投資家の要請に応じて）特定のテーマに沿った投資対象を開発・リサーチし、資金を集めることができたことになったことです。可能性はほぼ無限大です。今回の調査では、投資家に今後追求する予定のテーマをいくつか記入してもらったところ、ブロックチェーン、気候変動、暗号通貨などが多く挙げられていました。

ほとんどの主要なトレンドは、それぞれをテーマ型インデックス別に分けることができます。もう一つの例として、ペットの飼育が挙げられます。「中産階級層の拡大や少子化の影響で、世界中でペットを飼う人が増えています」とザウは述べます。ETFやそれに類するプロダクトを構築する場合には、個々の企業がこのトレンドからどの程度利益を得ることができるかを綿密に調べ、そこから全体像を捉えることが重要です。」

テーマをETFやインデックスにパッケージ化することで、本質的に従来のテーマ型投資を産業化することができます。これらは取引所に上場されているため、「より高い流動性を生み出すとともに、資産運用会社はより多くの投資家に投資コンセプトを浸透させることができます」とザウは述べています。



### 市場をさらに詳しく見ると

現在のテーマ型投資のほとんどはアクティブ運用ですが、パッシブ戦略へのシフトは明らかです。パッシブ戦略により大きな資金を投入する割合は、現在の24%から3年後には43%に上昇する見込みです。



# セクション

テーマ型投資は、パッシブ戦略とアクティブ戦略を通して実現されます。つまり、ETFやETPとして取得した場合でも、目論見書に記載されている基本的な戦略に応じて、原資産である投資対象のプールはアクティブにもパッシブにも運用される可能性があるということです。

現在は、テーマ型投資の大半がアクティブ運用となっています。例えば、図3に示すように、この先18カ月から3年にかけて、もともとパッシブ運用の中に占めるテーマ型投資が相対的に低かった投資家が、大きく割合を引き上げようとしていることが分かります。具体的には、回答者の10人中7人(71%)がパッシブ商品を利用していますが、これは彼らの現在のテーマ型投資で0~20%程度と比較的小さな割合となっています。回答者のほぼ4分の1(24%)がテーマ型投資の20~50%にパッシブ戦略を用いていますが、テーマ型投資の半分以上がパッシブであると答えたのはわずか4%でした。

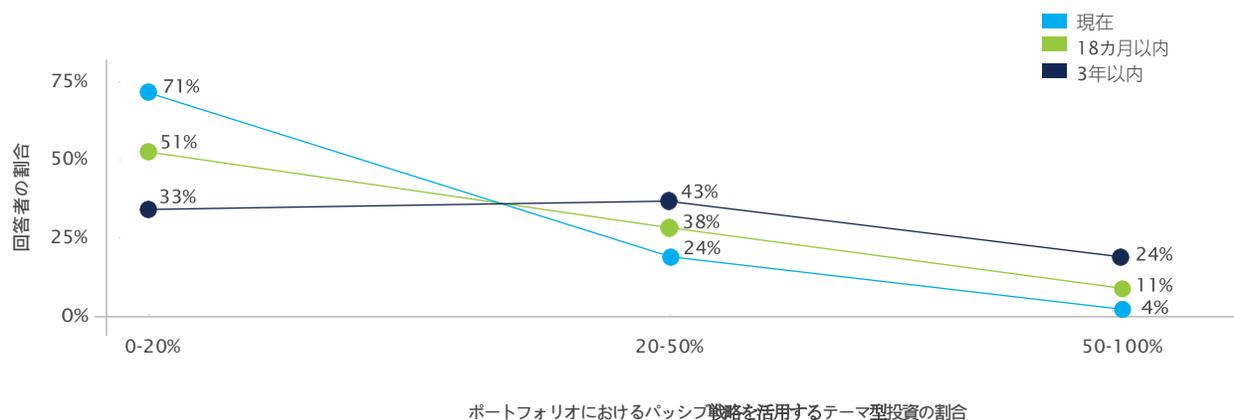
### パッシブへのシフト

今後は、パッシブ戦略を活用したテーマ型投資への大きなシフトが発生すると予想されます。例えば、テーマ型戦略のうち0~20%だけがパッシブであると回答した人は、現在の71%から18カ月後には51%に、さらに3年後には33%に減少していくと見られます。パッシブ戦略のより大きなバスケット、すなわち、全体の20~50%を占める割合は、現在の24%から18カ月後には38%、3年後には43%まで上昇する見込みです。また、パッシブなテーマ型戦略が全体の50~100%を占めると回答した企業は、現在の4%から18カ月後には11%に、さらに3年後には24%にまで増加すると予想されます(図3)。

パッシブ戦略に向かうトレンドは明らかですが、テーマ型投資においては、何が真のアクティブで何が真のパッシブなのかという区別が薄れてきているとザウは見ている。「データの種類やインデックスの方法論がより洗練され多面的なものになるにつれて、パッシブ戦略は、コストの低さや透明性の高さといったメリットはもちろん残しつつ、ダイナミズムやリスクプレミアムを引き出す能力の点で、ますますアクティブ戦略に近づいていくはずだ。いつ、どこで、アクティブとパッシブの均衡点に達するのか、また、アクティブマネジャーが差別化と付加価値を高めるためにどのように進化していくのか、非常に興味深いところだ」とザウは述べています。

図3

Q パッシブなテーマ型投資へのシフトが顕著に  
テーマ型投資総額のうち、パッシブ戦略の割合はどのくらいですか？





### 多様な投資の原動力

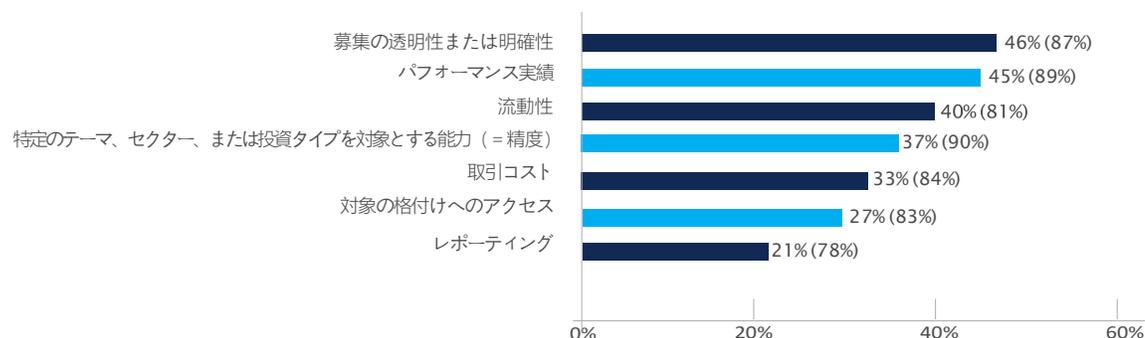
今回の調査では、投資家がテーマ型の商品を選択し、投資戦略を構築する前に、幅広い属性を考慮していることが浮かび上がりました。今回の調査で検証した7つのコアな投資評価指標について、テーマ型投資に関心のある企業のかなりの割合が、すべての指標を重要視していることがわかっています。例えば、特定のテーマに的を絞る「精度」については、90%の企業が「重要」(53%) または「非常に重要」(37%)と回答しており、最も高い割合になっています。

また、今回の分析では、順位に一層意味をもたせるために、「非常に重要」を主な選択項目としてさまざまな検討事項をランク付けしました。この観点から、トップ3の検討事項は、募集の透明性または明確性 (46%)、パフォーマンス実績 (45%)、および流動性 (40%)となりました (図4)。

図4

Q 募集の透明性 / 明確性、パフォーマンス実績、そして流動性は必要不可欠

テーマ型投資における御社の最も重要な検討事項は何ですか<sup>1</sup>?



<sup>1</sup>最初の数字は「非常に重要」、()内の数字は「非常に重要」と「重要」の合計値

# 強気 VS 弱気

株式、債券、オルタナティブのパフォーマンス見通しについて

今回のテーマ型投資動向調査は、株式、債券、オルタナティブ投資という3つのセクターの投資動向をタイムリーに把握するという本来の目的からは少々逸脱しています。



2021年4月上旬の時点では、これら3つのセクターすべてにおいて強気が弱気を上回っており、投資家は明るい見通しを持っていました。

強気		横ばい		弱気	
18カ月	3年	18カ月	3年	18カ月	3年
株式市場 / 株式					
49% <sup>1</sup>	63% <sup>2</sup>	27%	11%	24%	23% <sup>3</sup>
債券市場 / 債券					
27%	37%	45%	35% <sup>4</sup>	27%	28%
オルタナティブ投資					
50%	71% <sup>5</sup>	33%	14%	14%	13%

<sup>1</sup>59% 欧州 (ベース) <sup>2</sup>82% 欧州 / 56% APAC <sup>3</sup>30% 北米 / 15% 欧州 <sup>4</sup>56% 欧州 <sup>5</sup>89% 欧州 / 56% APAC

テーマ型投資への関心の高まりは、  
それが魅力的な機会であることの証左  
テーマ型投資に関しては、市場の欲求は高  
く、82%の人がより幅広いテーマ型の投資  
機会を検討したいとしています。



セクション

今回の調査では、投資家が最も魅力を感じるのどのようなものかを検証するために、破壊的技術やセクター / 地理的テーマを含む5つのテーマ型投資について調べたところ、全体的に高い関心が寄せられていることがわかりました。これは、ザウにとつては驚くべきことではなかったようです。「投資家は、自動車の自動運転やロボット工学から5Gまで、幅広いテーマについてもっと知りたいと熱望していることが、はっきりと見てとれます。」

さらに分析を深めるために、ある分野に最も関心を持っている人（「非常に関心がある」 + 「関心がある」）と、関心を持っているだけの人（「関心がある」）とを比較して、再度ランク付けしました。

この観点から見ると、ESG / サステナビリティのテーマに対する需要が最も高く、49%が強い関心を示しています。次いで、35%（全体では79%）が破壊的技術に、30%（全体では85%）が人口動態 / 構造的トレンドに強い関心を示しています。また、セクター / 地理ベースのテーマ（「強い」）が26%、全体で85%）や、スマートベータ / アルファ追求型テーマ（「強い」）が23%、全体で75%）にも高い関心が寄せられています（図5）。

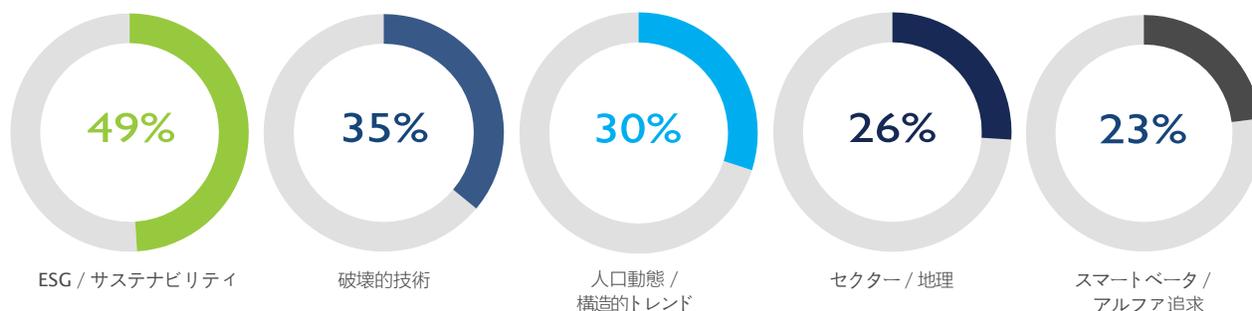


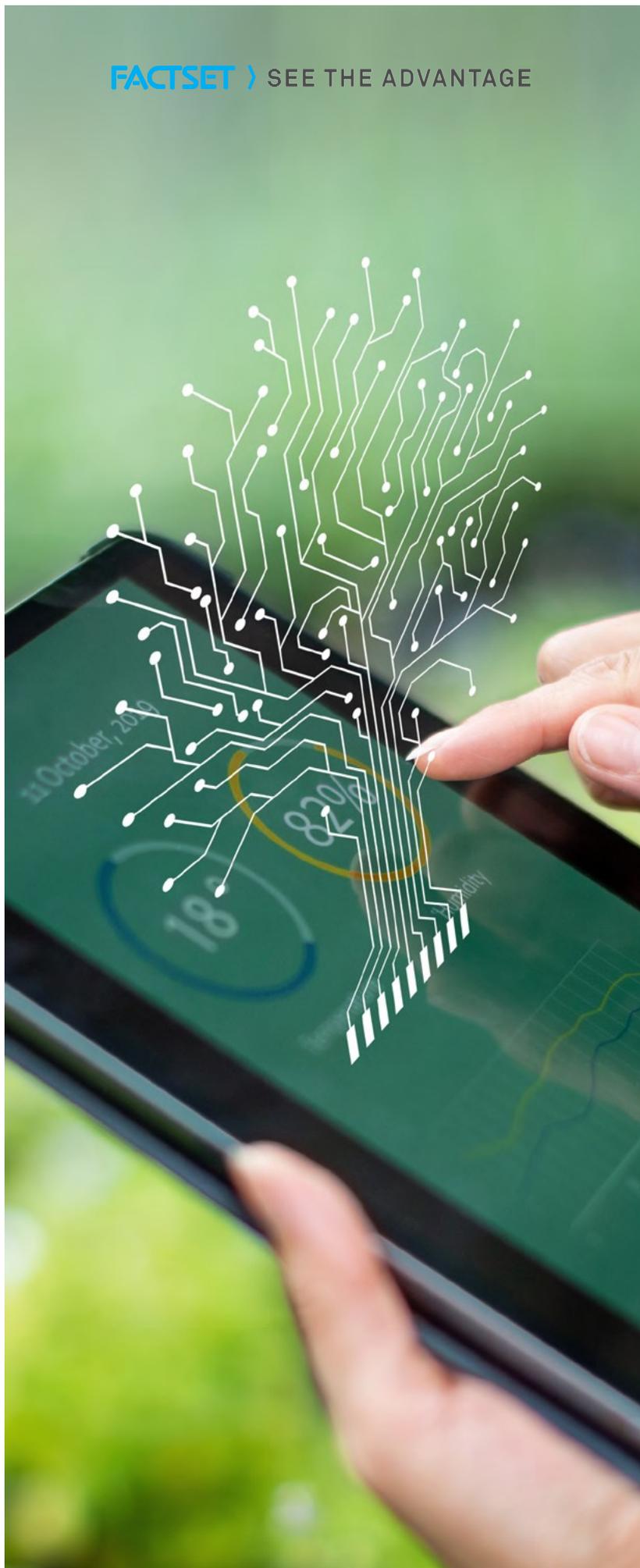
# 49%

の投資家が、最も追求したい  
テーマは「ESG / サステナビリティ」  
としています。

図5

Q テーマ型投資への投資家の関心は全体的に高い  
以下のテーマについて、あなたの関心の度合いは？





回答者の90%が、自身の組織にとってESG投資の重要性が高まっているとし、82%がテーマ型商品はESG投資の目標を達成するための重要な手段であると回答しています。

#### ESGをより深く理解する

前述の5つの各セグメントには、幅広いインデックス組成の機会があります。最も関心が強く、かつ全体的にも関心が高かったESGに焦点を当てることで、その需要の深さを知ることができます。

調査回答者は、現在、平均してポートフォリオ運用の26%がESGとみなされる資産に対するものであると述べています。しかし、この割合は今後3年間で着実に増加し、18カ月以内に平均32%、3年以内には40%にまで上昇する見込みです。実際、90%が自身の組織にとってESG投資の重要性が増しているとしており、82%がESG投資の目標を達成するための重要な手段はテーマ型商品であるという点に同意しています。

#### 投資家はコラボレーションを求めている

ESGは最も頻繁に取り上げられるテーマかもしれませんが、実際には、同様の機会がテーマ型投資の全ての領域に存在する可能性があります。今回の結果から、投資家はプロバイダーとの積極的なコラボレーションを望んでいることがわかりました。83%が、運用会社と積極的に協力し、オーダーメイドのテーマを開発することに興味があると答えています。さらに82%が、ファンド運用会社がオーダーメイドのテーマ型ファンドを開発するためのシード資金提供に興味があると答えています。

「重要なのは、ターゲットとなる投資家が、投資目的を達成するためにどのようなテーマや仕組みを求めているのかを把握することです」とザウは述べています。

コラボレーションの形態や方向性にかかわらず、テーマを選択する際には、回答者の45%がテーマ型投資の選択とサイズ決定において定量的なプロセスを好む傾向があると答えていることには注意が必要です（欧州の回答者では35%にとどまりました）。対照的に、20%は自社のプロセスを「定性的」と表現し、約3分の1の36%は自社のアプローチを「ミックス」と表現しています。

## 95%の投資家が革新的な投資アイデアの探求に興味を持ち、91%が新たなプロバイダーとの関係構築に前向きです。

### 業界は革新的な投資アイデアを求めている

今回のファクトセット / フォーブス・インサイトの調査では、現在のポートフォリオのパフォーマンスやプロバイダーに対する投資家の全般的な満足度、および新規またはより広範囲な関係に対する許容度を評価する機会も設けられました。

現在、85%が自身のポートフォリオのパフォーマンスに非常に満足しており、90%が現在の資産運用会社や関連プロバイダーに満足しています。それにもかかわらず、95%が革新的な投資アイデアを検討することに興味を持ち、91%が他のプロバイダーとの新しい関係に前向きな姿勢を持っています。

今回の調査では、投資家が新しい資産運用会社や関連プロバイダーと協力関係を構築する際に影響を与える可能性のある、さまざまな問題に焦点を当てました。下図のように、全体的な結果を見ると、回答者はアンケートに含まれる属性のリスト全体に影響を受けていることがわかります。このような理由から、当社の分析では、地域に関する専門知識、ETFやETPへのアクセス、デジタル対応など、リレーションシップの決定に最も影響を与える分野にも焦点を当てています。



考慮すべき項目	強い影響 <sup>1</sup>	全体的な影響 <sup>2</sup>
ETFやETPの利用	44%	83%
デジタル対応 - 高度な分析	36%	87%
オルタナティブ投資の能力	34%	80%
オーダーメイド商品へのアクセス	31%	82%
提供価値に応じた手数料	28%	84%
募集範囲の幅広さ	27%	81%
オーダーメイドのインデックスファンドへのアクセス	27%	83%
デジタル対応 - レポートリング / コンプライアンス	25%	87%
マイノリティやジェンダーの観点を取り入れた運用	24%	60%
地域別の専門知識	22%	79%
よりソフトな問題 (例: プロバイダーのESGに対するコミットメント)	21%	76%

<sup>1</sup>「影響がない」から「強い影響」までの1から5の評価で「5」。

<sup>2</sup>「影響がない」から「強い影響」までの1から5の評価で「4」または「5」。

## まとめ：チャンスが現実のものに

競争の激しい投資市場において、資産運用会社や関連プロバイダーは、既存の投資家と潜在的な投資家の両方の注目を集めるために、テーマ型投資を活用することができます。ファクトセットとフォーブス・インサイトによる今回の調査では、数多くの実用的な知見が得られました。



投資家は確実に、投資の選択肢を増やしたいと考えています。彼らはイノベーションを重視し、シード資金の提供など、構想から実現までの役割を果たすことを望んでいます。資産運用会社は、お客様や見込み客と積極的に関わるのが重要です。



最も有望かつ広く求められているテーマ型投資は、ESG投資を中心としたものです。しかし、破壊的技術や人口動態の構造的変化など、他の分野にもチャンスはあります。



投資家は特にテーマ型投資の利用を拡大することに興味を持っており、テーマ型資産は拡大する一方と予想されます。また、自身のポートフォリオに占めるテーマ型投資の割合が、今後18カ月間で平均35%に達し、3年以内にさらに20%伸びると予測しています。



投資家が新たな資産運用会社や関連プロバイダーと関係を構築する際に最も影響を与える要素は、ETF / ETPへのアクセス、デジタル対応 / 高度な分析、オルタナティブ投資能力の3つです。

イノベーションに対する欲求はすでに強いものの、さらに高まりつつあります。チョウにとって、これは新しいチャンスを意味します。「ターゲットを絞った魅力的なテーマ型投資を開発するためのステップを踏むことは、資産運用会社やアンダーライターが独自に、あるいはお客様や見込み客と協力して、積極的に追求すべきチャンスです。」

### 調査について

本稿の調査結果は、フォーブス・インサイトが実施した103人のエグゼクティブを対象としたグローバル調査に基づいています。インタビューは2021年4月に行われ、回答者の多くは、商業銀行（42%）、保険会社（19%）、投資信託（17%）、ヘッジファンド（15%）、基金・財団（4%）を含む機関投資家でした。回答は、北米（39%）、欧州（26%）、アジア太平洋地域（35%）から寄せられました。回答者の半数以上（59%）が経営幹部職で、回答者全員が2億5,000万ドル以上の運用資産を持つ企業に属し、うち51%が少なくとも100億ドル以上の運用資産を持つ企業でした。



## Forbes insights

フォーブス・インサイトは、フォーブス・メディアの詳細的リサーチおよびソート・リーダーシップを担当する部門です。フォーブス・インサイトは、フォーブス・コミュニティのシニアレベルのエグゼクティブを対象とした独自のデータベースを活用し、ブランドをソートリーダーとして位置づけ、ステークホルダーとのエンゲージメントを促進するために、さまざまなテーマのリサーチを行っています。

## FACTSET › SEE THE ADVANTAGE

ファクトセット (NYSE: FDS、NASDAQ: FDS) は、優れたコンテンツ、分析、サービスおよびテクノロジーを提供することで、いち早く投資機会を発見、実践できるよう155,000人以上におよぶユーザーを支援しております。また、情報に基づいた知見、ポートフォリオ・ライフサイクル全体のワークフロー・ソリューション、および豊富な知識を有する専門家によるサポートを通して、投資の専門家である皆様の成功をお約束します。当社の分析およびデータに基づくソリューションは複数の賞を受賞しております。また、LGBTQ+への企業の方針や慣行に関するベンチマークである [Human Rights Campaign®のCorporate Equality Index](#) で繰り返し100ポイントを獲得しております。ぜひ、毎日配信される当社のソートリーダーブログ [insight.factset.com](http://insight.factset.com) で最新のインサイトをご覧ください。詳しい情報については、[www.factset.com](http://www.factset.com) にアクセスするか、ツイッター [www.twitter.com/factset](https://www.twitter.com/factset) をフォローしてください。



[www.factset.com](http://www.factset.com)